

第517回 長野放送番組審議会

議事録

(令和3年3月)

株式会社 長野放送

第517回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和3年3月3日(水) 午前11:00より
2. 開催場所 長野放送本社会議室
3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 7名
○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)
委員長 林 新一郎
委員 加藤 恵美子
委員 笹本 正治
委員 佐藤 裕一
委員 瀧川 浩
委員 武重 正史
委員 南澤 光弥
○欠席委員の氏名
副委員長 井口 弥寿彦
○放送事業者側出席者名
外山 衆司 (代表取締役社長)
太田 耕司 (取締役 報道制作担当)
飯嶋 憲彦 (取締役 編成・業務推進・放送番組審議会担当)
春原 晴久 (報道制作局長)
早川 英治 (編成局長)
浅輪 清 (編成局次長 兼番組考査部長
兼放送番組審議会事務局長)
北沢 輝久 (編成部長 兼視聴者室長)
飛田 修一 (制作部ディレクター)
4. 議題
(1) 番組審議

『 NBSフォーカス∞信州 日本遺産 姨捨の棚田 』

令和2年11月27日（金）夜7時00分～7時57分放送

(2) 視聴者対応報告（令和3年2月分）

(3) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・ 稲刈りの風景から棚田の全景そして千曲川、善光寺平と一望する映像まで、ドローンの撮影技術が向上したことによって、奥行きがあってぞくぞくするような、わくわくするような感じがした。
- ・ 冒頭ドローンによる空撮と画面左上の「姨捨の棚田」という題字がたいへん素晴らしいなと思った。空から見るとこれほど緑豊かで息を呑むほど美しいんだなと実感した。特に真上からの映像というのはモザイクを見ているようで、カメラアングルが非常に良かった。
- ・ 四季を通しての取材撮影、里山の風景の移り変わりも相まってこの場所をぜひ訪れたい、また行ってみたいなと思える番組に仕上がっていた。
- ・ 「棚田はひと時の安らぎである」という参加者のコメントが印象的だった。
- ・ 当時「田毎の月」の絵をどのようなイメージで描いたのか、可能性を模索していたというところにこの番組の制作の丁寧さがうかがえた。
- ・ 博物館の学芸員の方が言っていた「日本の絵画は異なる時間の流れを1つの場面に描く異時同図法の描写を用いての表現」は、なるほどと感じた。
- ・ 若林さんの写真の紹介で、朝日に染まる棚田と二重の虹、「田毎の月」と改めて美しさに感動し、長野県の財産なんだなと改めて感じた。
- ・ 歌川広重の「田毎の月」の解説で、そう見えるのかもということで古来からロマン

を駆り立てて来たと思うが、見えないということが科学的に実証されて誠に残念だった。

- ・ 藁仕事という形でお土産物も含めて目を向けた目の向け方が素晴らしいと思った。
- ・ 地形とか土壌とか水から最適な立地に築いて苦勞しても、ここに田を切り開いたんだなということで、昔の人の英知はすごいなと感心した。
- ・ 田んぼで、皆で取る食事の風景とか働く姿は、懐かしく美しいものだと感じた。
- ・ 分かりやすかったのは1反歩の収穫量は平地の7割5分。日当にすると2,000円程度。経済性の論理でいったら誰もやらない中を住民の努力と今までの経験から何とかしている。
- ・ ボランティアの皆さんが集まってやっている心意気に一番感動した。
- ・ 耕作放棄された荒れ地が保全努力により蘇ってきたということで、地道な活動に敬意を表しつつ、まさにこれはSDGsの一環だなと思った。
- ・ 機械化できずに効率が悪い棚田は、採算性か保全かという課題が示されたが、そこには効率性には無い人々の絆があると思った。
- ・ 景観の美しさだけではなく、人々の営みという意味で日本遺産に指定されたと思う。
- ・ 何とか守っていきたいし、この番組を見てボランティアに参加したり、オーナーになりたいと思った人も数多くいるのではないかと思い、大いに啓蒙活動にも繋がったと思う。
- ・ 日本遺産の認定を受けたということで人々の努力が実って良かった。「これからが大変だ」という会長の言葉は、実感がこもっていてその通りだと感じた。
- ・ 県内と県外、或いはお年寄りと若手の交流の姿というのは、これからの地方創生の1つの姿かなと。地域の継承とか観光業にとっても大いにヒントになった。
- ・ 私たちはこれから経済の論理を超えてどのようにして文化を守って行くかという切実な時期にいるのですけれども、そういう時にこのような番組を通して少しでも周りの人たちに影響を与えていただければいいなと改めて思った。

- ・冒頭から四季の風景の中に人々の営みを織り込んで、美しくストーリー性のある文句のない番組に仕上がった。
- ・地域に住む人々が故郷を自分たちの代では終わらせない、将来に残していくという強い決意が感じられたコメントが多数出ており、番組をよく締めていた。
- ・そこに生きる人を中心テーマに据えて四季の移ろいを紹介したので分かりやすく、親しみやすい番組に仕上がった。その中で事業承継とか、持続可能性とか、農業の在り方といった現代的なテーマを語ることができた。
- ・高齢化が進む中で農業をいかにして守って行くかという問題を深刻ではなくて、美しい映像で見せて考えさせるという意味で出来の良い番組だったと思う。
- ・自然景観の美しさもさることながら、人々の英知のたまものであるという意味では今回の番組のコンセプトというのは世界で考えられている棚田という価値、未来にどう繋いでいくのかという課題認識があってとても良かった。
- ・コロナで暗い話題が多いけれども、大変明るい番組で田舎の良さを伝えることができたと思う。
- ・画面を見た時に右上の所に今のやっている内容をきちっと載せていて、途中から見た人も今こういうところを話題にしてやっているというところも分かりやすくなって良かったと思う。
- ・山奥にあって水源があるにしろ水が大変じゃないかと思うが、水をどうやって下まで綺麗に入れるのかというところも教えていただきたいと感じた。
- ・千曲市の棚田オーナー制は千曲市が政策的に予算を取ってやっていると思うが、その仕組みがほとんど紹介されなかった。行政との関わりをもうちょっと浮き彫りにした方が番組そのものの重みが出るのではないかと思った。
- ・盛り込みすぎじゃないかと思う。あれもこれもが多すぎて分散してしまう可能性がある。もう少し落ち着いてもいいような気がする。
- ・全国との比較を入れたら良いと思う。棚田百選で百何十か所もあって、それに選

ばれていない棚田は無数にあって、その中であってこの姨捨の棚田というのはこういう位置にあるんだというのがもうちょっとクローズアップされると思う。

- ・たいへん工夫されたCMでここにも棚田が美しく出てきて相乗効果があった。スポンサーの方にも感謝をしたい番組だった。

(2) 視聴者対応報告

資料に基づき、令和3年2月分の視聴者対応について編成局より報告を行った。

(3) その他

配布資料

- ・委嘱状
- ・視聴者対応報告資料（令和3年2月分）
- ・第516回番組審議会（2月）議事録
- ・民間放送（第2174号）
- ・BPO報告（NO.222）
- ・モニターレポート

『 NBSフォーカス∞信州 日本遺産 姨捨の棚田 』

（令和2年11月27日 放送分）

以上